

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email:se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

危機にさらされる子どもたち

—世界子供白書2005年度版からの報告—

「子どもたちが危機にさらされている」と、ユニセフは『世界子供白書』の2005年度版で訴えています。今、「貧困」、「武力紛争」、「HIV/エイズ」の3つの危機が子どもたちの命と幸福をおびやかし続けています。世界の子どもたちがさらされている危機とはどのようなものなのでしょうか。

かけがえのない「子ども時代」が奪われる

「子ども時代」とは、子どもとして生きるかけがえのない期間です。それは、単に生まれてからおとなになるまでの期間ではなく、子どもが安全に健やかに、成長できる期間という意味合いが含まれています。平和で穏やかな生活、愛情あふれる家庭、安全できれいな水、十分な栄養、基礎的な学習、さまざまな体験など、健全なおとなに成長するためには「子ども時代」の過ごし方が重要です。しかし、今、世界の子どものかげがえのない「子ども時代」が奪われ、子どもたちは危機にさらされているのです。



エジプト、カイロ郊外のゴミ捨て場で輪ゴムを拾い集める男の子
貧困が子どもたちに過酷な現実をもたらしている
©UNICEF/HQ95-0969/Armineh Johannes



紛争や自然災害で常に子どもが弱い立場にたたされる(スーダン)
©UNICEF/HQ91-0914/Roger LeMoyne

貧困による子どもたちの不平等

開発途上国の子どもの50%以上は貧困が原因で、健康に成長することができなかつたり、能力を十分に発揮させるために必要な基礎的サービスを受けられないまま生きていかなければなりません。

ひとつの国の中でも、貧困によって子どもたちに不平等が存在します。また、現在、国民所得が比較的高い水準にある国ぐにでも、多くの子どもたちが貧困状態の中で暮らしています。

生存	開発途上国で生まれた子どもの6人に1人は5歳になる前に命を失う(豊かな国では167人に1人が命を失う)
健康	毎年200万人の子どもが予防接種で予防できるはずの病気で命を失う
教育	1億2,100万人以上の子どもが小学校に通えずにいる
保護	1億8,000万人の子どもが最悪の形態の児童労働に携わっている(例えば、子どもの兵士、炭鉱などの危険な環境での労働、人身売買で性産業などで働かされる、奴隷的労働など)



アフガニスタンの首都カブールにある帰還難民収容キャンプにて
©UNICEF/HQ03-0160/Shehzad Noorani

「子ども時代」を守ることは、未来を守ること

人間の基礎をつくるかけがえのない期間である「子ども時代」を奪われる影響は計り知れません。それはひとりの子どもの危機にとどまらず、次の世代にも引き継がれてしまうからです。あまりにも多くの子どもの「子ども時代」が危機にさらされているということは、私たちの未来が危機にさらされているということです。

「貧困」、「武力紛争」、「HIV／エイズ」—3つの危機にはさまざまな側面があり、多方面からの取り組みが必要です。例えば、HIV／エイズによる影響を受けた子どもたちを支援する活動に協力すること、保健や教育などの基礎的サービスを保障すること、親の延命をはかるとともに、コミュニティで子どもを守る取り組みを進めることなどです。

ユニセフは、すべての子どもが「子ども時代」を享受できる「子どもにふさわしい世界」を創るという私たちの『意志』が重要であること、さらに、子どもの権利は最も優先される課題にされなければならないと訴えています。

危機的な状況にあるすべての子どもの権利が守られるように、私たちは現実を知った上で、くじけることなく、あきらめずに危機に立ち向かうことが大切です。世界を変える動きや広がり、行動を起こそうという、私たちひとりひとりの意志にかかっているのです。

武力紛争の標的になる子どもたち

東西冷戦が終結してから14年の間に、世界48カ所で59の大規模な武力紛争が occurred。こうした武力紛争の標的になる子どもたちがますます増えています。性的暴力が敵を傷つけるために意図的に行われることがあり、シエラレオネやスーダン・ダルフル地方における紛争でも広範囲に見られました。学校、保健施設、コミュニティ、家族など、子どもの安全を守る仕組みは、紛争の最中には平常時のすべての機能を失ってしまいます。

- 1990年以来、紛争に巻き込まれて死亡した360万人のうち、約45%が子ども
- 数百万人の子どもたちがケガや一生残る障害を負ったり、性的暴力、トラウマ(心的外傷)、飢えや病気に苦しんでいる
- 紛争などのために自分の住む家や地域を追われた子どもはおよそ2千万人にのぼる

HIV／エイズの影響で増加する孤児たち

エイズは今、世界の15歳～49歳の人びとの死亡原因の第一位を占めています。この病気が子どもにもたらす最も大きな問題は「エイズ孤児」の問題です。エイズにより片方または両方の親を失う子どもが非常に多いのです。HIV／エイズは子どもたちを守る最善の安全網である家族を奪い去っているのです。

- 2001年～2003年の2年間で、片方または両方の親をエイズで亡くした子ども(18歳未満)の数は1,150万人から1,500万人に増加
- 親を亡くした子どものうち、約80%がサハラ以南のアフリカで生活している
- 孤児の90%はアフリカの伝統である拡大家族に引き取られて生活しているが、孤児の増加が激しいために、受け入れがむずかしくなりつつある



エイズで父親を亡くし、祖母のもとでぐらす兄妹。サハラ以南のアフリカに、世界のエイズ孤児の80%がぐらす(モザンビーク)
©UNICEF/HQ-0537/Giacomo Pirozzi



子どもたちの輝く笑顔を未来の輝きにするためには、私たちの「意志」が必要
©UNICEF/Sierra Leone

●世界子供白書のご案内●

「世界子供白書2005年度版」(日本語、148ページ)を希望の方には、1部まで郵送料とともに無料でご提供します。お問い合わせは学校事業部へ。

TEL:03-5789-2014
FAX:03-5789-2034
E-mail:se-jcu@unicef.or.jp

